

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.9
Q1 室内環境			0.40					3.6
1 音環境		2.9	0.15	2.7	1.00			2.8
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2 遮音		3.8	0.40	3.3	0.40			
1 開口部遮音性能	T-2サッシュを採用	5.0	0.41	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.59	2.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		3.5	0.35	3.7	1.00			3.6
2.1 室温制御		4.0	0.50	4.5	0.50			
1 室温	夏季、冬季24℃実現可能な設備容量	5.0	0.39	5.0	0.57			
2 外皮性能	外壁U:0.81、屋根U:0.6、窓システムSC:0.87、U:3.3	4.0	0.26	4.0	0.43			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.35		-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.2	0.25	4.1	1.00			3.5
3.1 昼光利用		3.8	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率	学校 U:1.8、病院 建物全体・共用 U:1.6、病院 住居 U:4.5	3.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口			-		-			
3 昼光利用設備	病院、学校共にライトコートを有する	5.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30			
1 昼光制御	カーテン、バルコニー庇にて制御	3.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御	住居部分:ベッド単位の照明制御可能	3.0	0.25	5.0	0.25			
4 空気環境		4.1	0.25	4.1	1.00			4.1
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63			
1 化学汚染物質	建築材料はF★★★★かつ低VOCをほぼ全面的に採用している	5.0	1.00	5.0	1.00			
4.2 換気		2.0	0.30	2.6	0.38			
1 換気量		3.0	0.48	3.0	0.33			
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上	4.0	0.03	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.48	1.0	0.33			
4.3 運用管理		5.0	0.20		-			
1 CO ₂ の監視		-	-		-			
2 喫煙の制御	全館禁煙にて喫煙所は建物内部に設置しない	5.0	1.00		-			
Q2 サービス性能			0.30					3.6
1 機能性		4.2	0.40	4.8	1.00			4.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	最低個室面積:18.12㎡		-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応			-		-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	4.5	0.40			
1 広さ感・景観	病院の宿泊部分の天井高さ2.5m	-	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース			-		-			
3 内装計画	施設用途を考慮すると共に藤沢の自然を内装コンセプトとし計画	5.0	1.00	5.0	0.50			
1.3 維持管理		5.0	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計	床壁は防汚材、風除室扉間4m、外部金属はアルミ材。外壁に水切り、段差なし。	5.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保	掃除流し付近にモップ掛設置。廃棄物保管庫、汚物処理室に脱臭機設置。	5.0	0.50		-			
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30					3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	住戸:床ビニルシート20年、壁PB12.5+ビニルクロス20年、天井PB9.5+ビニルクロス30年	5.0	0.10		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房排気ダクトは全てSUS製を使用	5.0	0.10		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VLP(B)、給湯CUP(D)、汚水排水VP(B)を使用。Eは不使用	5.0	0.20		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-			
2.4 信頼性		3.2	0.20					
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-			
2 給排水・衛生設備	節水型器具採用。配管系統を区分。簡易ろ過装置常備。	4.0	0.20		-			
3 電気設備		3.0	0.20		-			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-			
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-			
3 対応性・更新性		3.3	0.30	2.5	1.00			3.0
3.1 空間のゆとり		3.0	0.30	2.0	0.50			
1 階高のゆとり		3.0	0.60	2.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40	2.0	0.40			

3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.8	0.40			
1 空調配管の更新性		3.0	0.20			
2 給排水管の更新性	ルートを確保/PSを乾式壁にて構築	4.0	0.20			
3 電気配線の更新性		3.0	0.10			
4 通信配線の更新性		3.0	0.10			
5 設備機器の更新性	ルートを確保/非常用電源で上水ポンプや冷蔵庫が稼働可能	5.0	0.20			
6 バックアップスペースの確保	屋上は将来バックアップ設備を増設可能	4.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出	在来種(ケヤキ、シラカシ等)採用/タウンデザインがイド準拠(風道創出)	4.0	0.30			4.0
2 まちなみ・景観への配慮	藤沢市 平成28年度 緑と花のまちづくりコンクール 建物緑化賞 銀賞受賞	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		4.5	0.30			4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	交流広場、歩道状空地提供で地域貢献、夜間照明で地域防犯貢献。	5.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上	壁面・屋上緑化、空地50.77%、高木等の日陰41.84%、緑被60.83%	4.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.776	5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用	ライトコート	4.0	0.10			4.0
3 設備システムの高効率化	BEI 非住宅 - 住宅(専有部) -	4.4	0.50			4.4
集合住宅以外の評価(3a.3b)	BEI=0.80	4.4	1.00			
集合住宅の評価(3c)						
4 効率的運用		4.0	0.20			4.0
集合住宅以外の評価		4.0	1.00			
4.1 モニタリング		3.0	0.50			
4.2 運用管理体制	目標値計画。タウンマネジメント会社による監視。管理体制表策定。	5.0	0.50			
集合住宅の評価						
4.1 モニタリング						
4.2 運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護		3.8	0.20			3.8
1.1 節水	節水コマ、省水型機器の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無	雨水貯留タンク設置。植栽への灌水へ利用。	4.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減		3.8	0.60			3.8
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床タイル、ウレタン塗膜防水、床シート	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材	10%以上の国産杉無垢材を使用	4.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法、1階事務室:ユニットフロア、1階3~5歳児室:可動間仕切	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避		4.6	0.20			4.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含有しない建材を4種類採用。	5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避		4.5	0.70			
1 消火剤						
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWPが低い製品を採用	5.0	0.50			
3 冷媒	特定フロン冷媒使用なし。自然冷媒(CO2)HP給湯器採用。GWP50未満	4.0	0.50			
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率=82%	3.7	0.33			3.7
2 地域環境への配慮		3.8	0.33			3.8
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善	風環境を把握。隣棟間隔指標Rw1.43、地表面対策面積率110.09%	4.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制		4.2	0.25			
1 雨水排水負荷低減	任意で雨水浸透している	4.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	十分な駐車・駐輪スペース、管理・荷捌用駐車スペースの確保	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制	ゴミの多種分別が可能なストックスペースを設置。缶の減容化設備を設置。	5.0	0.25			
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
1 騒音		3.0	1.00			
2 振動						
3 悪臭						
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40			
1 風害の抑制		3.0	0.70			
2 砂塵の抑制						
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制		4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストにより判断/広告物照明は行っていない	5.0	0.70			
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			